

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

第64年度（平成25年度） 通常総会開催される

第42回
全国酪農青年女性酪農発表大会 Ⅰ

全国酪農青年女性会議／半澤監事に聞く！

若手後継者の本音／関谷 亮太さん



酪農トピックス／
第20回スポーツ交流会を開催！（仙台）ほか
人事異動

日本酪農見て歩紀（北海道鶴居村 釧路丹頂農協幌呂支所 植田牧場）



8

2013 August No.575



全国酪農業協同組合連合会

第64年度(平成25年度)

通常総会開催される

7月25日(木)

グランドプリンスホテル新高輪
国際館パミール

.....
本会は、7月25日(木)、グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール(東京都港区高輪)において、第64年度通常総会を開催し、平成24年度の事業実績、剰余金処分案、平成25年度の事業計画等の承認を得るとともに、役員の補欠選任を諮った。
.....

午後1時、定刻開始となった総会の冒頭、挨拶に立った砂金甚太郎代表理事会長は、はじめに会員並びに来賓各位の参集に対して謝意を表した。

そして、昨今の厳しい酪農情勢については、

「昨年12月の自民党への政権交代以降、新政権が打ち出した経済政策、景気回復を最終目的とした、いわゆる『アベノミクス』により、国内では株価の上昇、景況感の好転が見られたとともに、為替相場では円安基調が定着した。

この円安基調は輸出関連企業にとっては、大きな業績改善効果をもたらしたものの、我々、酪農業界にとつては、昨年の米国の大干ばつによる穀物相場の高止まりと併せて、輸入コストの上昇、飼料価格の高騰を招き、『酪農危機』と言われた2008年と同様に、酪農経営を大きく圧迫している。

このような厳しい状況の中、今年度の乳価交渉において、指定団体と大手乳業メーカー各社との間で、飲用向け乳価について10月からキロ当たり

5円の値上げで決着したが、今後は牛乳の小売価格への適正な転嫁が全国的に実施されるとともに、牛乳乳製品の消費拡大が重要だと考えている。」と述べた。

続いて、飼料情勢については、「7月からの配合飼料価格の値上げについては、国費の投入による『配合飼料高騰緊急対策』を政府に実施していただいたが、飼料穀物相場の長期間にわたる高止まりについては、配合飼料価格安定基金制度の仕組み、その財源の確保など、抜本的な議論も必要であると考えている。

そして、日本農業に大きな影響を与えるTPPに関しては、マレーシアで開催されている第18回TPP交渉会合から我が国も参加している。



挨拶する 砂金代表理事会長



農林水産省 菅家課長

先日の参院選では、予想どおり大きく自民党が議席を伸ばし安定政権を確立したが、政府に対しては今後とも日本酪農の現状を訴えていくとともに、自民党や衆参両院農林水産委員会での決議どおり、乳製品や牛肉、米等の重要品目について、他国には一歩も譲らず、毅然とした態度で今後の交渉に臨んでいただきたいと考えている。」と述べた。

続いて、本会の事業実績・計画関係については、「平成24年度の実績は、会員の皆様のご理解とご協力を賜った結果、計画を上回る成績で税引き前当期利益を残すことができた。改めて、厚く御礼申し上げる。

本会の事業推進については、日頃から、会員・酪農家の皆様から多大なるご理解とご協力を賜



農林中央金庫 種田常務理事

り、深く感謝申し上げますとともに、今後も役職員一同、会員・酪農家の皆様の負託に応えるべく一丸となって職務遂行にまい進する所存である。」と述べ、開会の挨拶を終えた。

本総会には来賓として、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課・菅家秀人課長、農林中央金庫・種田宏平常務理事をはじめとして、公益社団法人中央畜産会、一般社団法人中央酪農会議、一般社団法人全国酪農協会、一般社団法人全国農協乳業協会等関係団体から多数のご臨席をいただいた。

そして、来賓挨拶の中で農林水産省の菅家課長は、「24年度の生乳生産は久方ぶりの増産となった。全国では7年ぶり、都府県では16年ぶりのことである。これもひとえに皆様方が増産に取り組んでいただいた結果であり、深く敬意を表する。

25年度は、当初は落ち着いていたが、関東地方まで梅雨明けが早かったうえ、この猛暑となり、生乳生産に大きな悪影響が出ることを強く懸念している。皆様方においては、暑熱対策と飼養管理の徹底の面で指導をお願いしたい。

需給については、今は昨年と比較すると落ち着いている状況だが、夏の天候、乳価の引上げの影響といったこともあり、今夏以降にどのようなのか、需給を管理する私どもも細心の注意を払って見極めていきたい。

配合飼料価格について、7～9月期の配合飼料価格が67,900円になり、昨年秋季からの価格高騰に伴い、通常補填基金からの補填が続いていたが、この7～9月期において財源が不足する事態になった。これまでの通常の方法だと、資金の借入れを行って対応していただくことになっているが、既に相当額の借入れがあるということと、重要な食料品である牛乳乳製品の安定供給が重要であるということで、特例の緊急措置として、補填できない額の半分を^①資金を用いて補填をするという対策を与党でまとめていただき、現在実施している状況である。これは事実上、通常補填基金への国費投入という前例のない措置であり、現下の情勢を鑑み、相当踏み込んだ対策をとったということである。

今後の配合飼料価格については、直近のデータで、アメリカのとうもろこし価格が(1ブッシュェル当たり)508セントで、831セントだった昨年8月の最高値と比較して、4割ほど落ちている状況である。為替の影響もあるが、ようやくアメリカのとうもろこし価格が落ち着きを見せてきたことは、非常に良いニュースであると思う。

25年度の乳価については、乳業メーカーと各指

定団体が交渉した結果、10月から飲用向け乳価を1キログラム当たり5円値上げということとまとめていただいた。先日、明治がこの乳価値上げ分を納入価格に転嫁すると発表し、今後は各乳業メーカーと量販店の間で交渉が行われていく。このような局面では、実際に牛乳を消費する消費者の理解を得ていくことが何より大切であると考えている。消費者に対し、今回の小売価格への転嫁に至る背景を十分に理解していただいて、前回値上げした平成20年のような、牛乳消費量の大幅な減退がないように、しっかりと取り組んでいく必要があると思う。

生産者団体においても、その取組みをしていると聞いており、農林水産省としても予算の手当てをきちんとしている。予算面での側面的な支援をして、牛乳の消費が減退していくことがないよう、しっかりと国民の皆様方の理解を得ていくことを、生産者団体の皆様と共に取り組んでいくことを考えている。

乳業の再編合理化について、それなりに進んでいるが、処理能力と実際の処理量にはまだ相当ギャップがあり、もつと再編合理化が進んでもいいのではないかと認識している。国でもそれなりの予算面での支援、制度資金面での支援の準備はしているが、更にどのような対処していくべきか、私どもとしても検討していきたいと考えているところだ。

酪農乳業をめぐる課題は非常に大変なものがあるということは皆様と私どもの共通の認識であると考えている。T P P交渉参加、都府県における酪農基盤の問題、飼料価格の問題など、問題が山積しているが、これまでのように生産者団体の皆様と私ども行政が力を合わせて取り組み、難局を

乗り切ってまいりたいので、是非ご協力をいただきたい。」と述べられた。

また、農林中央金庫の種田常務理事は、「国内の酪農をめぐる情勢は、非常に厳しく、飼料価格の高止まり、為替の円安傾向が続き、ますます生産コストに悪い影響を与えることを心配している。」

また、国内の人口減少と高齢化により、我々の担い手も減少していくうえ、T P P交渉参加ということで、不透明さが増している。

そのような厳しい中でも、貴会におかれては平成24年度において順調な決算内容だったと伺っている。これも、ひとえに会員皆様のご協力と役員のご努力、そして何より砂金会長の強いリーダーシップの賜物である。

今年度については、昨年度以上の厳しい状況が続いているが、生産基盤の回復に向けて、全国連として会員指導により一層の役割を發揮していただきたい。また、引き続き、昨年発表した将来ビ

新役員紹介

第5号議案「役員の選任に関する件」において補欠選任が行われ、愛媛県酪農業協同組合連合会・代表理事会長である和氣 茂太氏が新しく理事として選任された。



■理事 和氣 茂太氏
愛媛県酪農業協同組合連合会・
代表理事会長

平成24年度事業実績及び平成25年度事業計画

(単位：百万円)

科 目	平成24年度 実績 ①	平成25年度 計画 ②	②/①対比
酪農事業（取扱金額）	11,110	11,526	103.7%
購買事業（取扱金額）	75,867	75,275	99.2%
総取扱金額	86,976	86,801	99.8%
事業総利益	12,013	11,994	99.8%
販売費用	7,824	8,124	103.8%
事業管理費	3,112	3,192	102.6%
事業利益	1,078	678	62.9%
事業外損益	335	15	4.5%
経常利益	1,413	693	49.0%
特別損益	▲33	▲161	487.9%
税引前当期利益	1,380	532	38.6%

ジョンの実現に向けて、計画とその進捗管理をお願いしたい。

貴連合会の経営の向上と、全国連としての機能発揮が、会員の経営の安定と、国内の酪農業の発展に資するものと認識している。皆様方が将来にわたりまして豊かな食生活を守って国民の期待に応えていくことを心からお願ひする。

当金庫としても、系統金融機関としてできる限りのご協力をさせていただく所存である。」と述べられた。

この後、桃澤 明氏（伊那酪農業協同組合、代表理事組合長）を議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で承認された。

第42回 全国酪農青年女性酪農発表大会 Ⅰ

酪農経営発表の部

齋藤 潤也さん(九州会議)が農林水産大臣賞を受賞!!
橋本 あきさん(東北会議)が審査員特別賞を受賞!!



会場の様子

7月11日(木)～12日(金)の両日、熊本県熊本市「ホテル日航熊本」で全国の酪農生産者及び関係者約600人が参集し、「第42回全国酪農青年女性酪農発表大会」が開催されました。

大会1日目、内ヶ島賢勇監事の総合司会、半澤善幸監事による開会宣言で開会、野村栄一副委員長による綱領唱和につづき、主催者として全国酪農青年女性会議・大井幸男委員長と本会・砂金甚太郎代表理事会長から挨拶がありました。



大井幸男委員長

まず初めに、全国酪農青年女性会議大井委員長より、主催者挨拶が述べられました。「去年の41回大会の最優秀者である塩野谷さんが、農林水産祭で内閣総理大臣賞を受賞された。この大会からの受賞ということで、委員長として誇らしく思う。

さて、口蹄疫発生、東日本大震災、餌

の高騰、追い打ちをかけるかのようなアベノミクスによる円安、またそれによる資材の高騰、そして自民党によるTPPへの参加表明など、日本農業に対する環境の激変は私達の想像以上である。そんな中、この第42回大会でたくさんの方にお集まり頂き、嬉しい限りである。皆が、この発表大会に来て、元気が出る、そして皆から元気をもらえる、大きな夢が持てる、そういう大会になるよう祈念する。この大会から日本中の酪農へ元気を発信したい」

続いて砂金会長より、挨拶が述べられました。「本大会は、平成22年の宮崎県での口蹄疫発生と、平成23年の東日本大震災の影響を受け、2年続けての中止となり、昨年3年ぶりに開催することができたが、宮崎県においては、口蹄疫により53戸の酪農家が被災された。その後、47戸の酪農家が経営を再開することができたと聞いている。ご本人、そして関係各位の経営再開に対するご努力に対して、改めて敬意を表するところであ





砂金甚太郎会長

る。一方、東日本大震災においては、原発被害による除染対策や、放射性物質による風評被害等の問題が未だ続いている。そして、国内全体では、昨年から飼料価格の高止まりや、TPP交渉参加問題等、不安定で混沌とした状態である。酪農家戸数、乳用牛飼養頭数の減少が続く中、このような政治、経済の影響を受け、酪農家が置かれている状況が極めて厳しいことは、ご承知のとおりである。

しかし、このような状況下、将来を不安視しているだけでは展望は開けない。我々は、良質で安心安全な牛乳乳製品を国民へ供給するという責任と、多面的に国土保全の役割を担う酪農を営んでいる、というプライドを胸に、確実に歩を進めていく必要がある。

皆さん、本日は1年ぶりの再会である。大いに語り合い、旧交を温めていただきたい。そして、本大会での交流が、皆様とそれぞれ各地域の、ひいては日本の酪農経営の、明日からの活力となることを心より祈念して、ご挨拶とさせていただきます」

続いて、農林水産省生産局畜産部部長 原田英男氏より、祝辞が述べられました。「酪農の世界は、仲間意識の高さ、交流の強さをとても感じる。3年前の口蹄疫、2年前の東日本大震災、それに伴う原発事故など、本当に厳しい試練があり、心理的な面でも気持ちが晴れないということもあったかと思う。その中で、この熊本に600人ほどの方が集まったということで、酪農を盛り上げようという力強いパワーを感じている。宮崎の口蹄疫においても、酪農家の方の復旧が一番早く、酪農が地域をリードしていることを感じた。原発事故については、特に福島の方々は現在も大変な苦しみがあり、牧草汚染があった地域は除染を進めながら、元の生産体制に戻す努力をされている。国としても補助事業も含めて色々な応援をしているところである。福島県では、復興牧場『ミネロファーム』が設立、運営を開始しており、今後も避難された方々に対し、経営再建に向けて進めていく取組みをされている。除染も少しずつ進んでいるので、何とか1日も早く、原発事故の苦しみから回復できるよう、国としてもお手伝い



農林水産省 原田英男畜産部長

していく。配合飼料の高騰についても、緊急対策を打ったが、シカゴ相場・為替について読み切れない状況が続いている。国内の資源を使って生乳生産をしていただくために、私達も力強く進めていく必要があるのではと思っているところである。

全国どこに行っても思うことだが、酪農には色々なスタイルがある。地域の条件、家族の条件、いろんな条件が異なり、これが酪農だ」というものも様々である。多様な酪農スタイルを今回の発表でお互いに学んで自分の経営に取り入れられることもあるかと思う。自分のお城を築くように酪農経営を築かれている方々も、それまでの道のりを何うことで、皆さんも勇気づけられて、地元に戻って、またご自身の経営に自信を持つ



熊本県 蒲島郁夫知事

て進めると思う。ぜひ力強いお話を聞かせていただき、これからの酪農を盛り上げられるように一緒に考えていきたい」

次に、熊本県知事 蒲島郁夫氏より、祝辞が述べられました。「熊本県民を代表して、熊本に來られた皆様の心より歓迎する。私は、全国の知事の中で、農業経験のある唯一の知事ではないかと思っている。以前、米国で2年肉牛を飼養しており、なかなか休みが取れず大変だった印象がある。その後、大学でも畜産学を学んだので、畜産との関わりは6年ほどある。そのため、酪農家の皆様がこれまで頑張ってきたこと、様々な逆境を乗り越えて今があるということに、心から感銘を受けている。蒲島農政の基本方針は、稼げる農業、ストーリー性の



熊本市 牧慎太郎副市長

ある農業である。農家の方々が経済的な余裕を持ち、安心・安全で、誇りや夢を持てるような職業であってほしいと心から願っている。その一つとして、熊本での耕作放棄地を利用し、飼料用米を作ることで循環型農業を目指している。最近の嬉しいニュースとして、阿蘇地域の農業が、世界農業遺産に登録された。阿蘇の草原を守るのは阿蘇の畜産であり、循環型農業であるということが登録の大きな理由である。農家の方々の誇りにも繋がることだと心から喜んでいる。今回参加いただいた皆様には熊本の美味しい料理・お酒を楽しんでいただきたい」

そして最後に、熊本市副市長 牧慎太郎氏より、祝辞が述べられました。「前回の熊本での開催は昭和63年で、25年振



功労者を代表して挨拶をする前田哲也氏

りの開催と伺った。熊本市民73万人を代表して、心より歓迎を申し上げたい。熊本県は生乳生産量が第5位だが、西日本では一番の酪農県である。その中で、熊本市は酪農家戸数が県内で2番目であり、全国20の政令指定都市の中で、これだけ酪農に本格的に取り組んでいるのは唯一熊本市だけである。また、先日『父の日に牛乳を贈ろう！』キャンペーンで熊本県酪農女性部協議会の方から牛乳を頂いたが、地元の新鮮な牛乳でとても美味しく、量だけでなく質も兼ね備えていると感じた。今大会を通じて、皆様大いに交流を深められ、研鑽を積まれて、全国の皆様方に美味しい牛乳をこれからも届け続けていただきたい」

主催者、ご来賓の挨拶に続き、当会議の役員委員として長年に渡り会議活動に

参加され、昨年の改選において役を退いた方への功労者表彰がありました。今年度は、北海道会議の前田哲也さん、吉田浩貴さん、東北会議の佐々木総隆さん、西日本会議の宮地健司さん、九州会議の仲本久子さんが対象となり、大井委員長より感謝状と記念品が授与されました。開会式終了後、各地域の代表者6名による酪農経営発表が行われました。

第40回らくのうこどもギャラリーの表彰式では、くまモンがサプライズゲストとして登場し、会場を大いに盛り上げてくれました。その後、各地域の代表者6名による酪農意見・体験発表をもって1日目の行程を終了しました。

2日目には、第4回酪農いきいきフォトコンテストの表彰式がありました。この企画は、牛乳の生産現場を消費者に知ってもらうことを目的として開催しており、今年は総応募数40点が全国大会で掲示されました。参加者投票による審査の結果、関東甲信越酪農青年女性会議の

丹野貴子さんの作品が見事最優秀に選ばれました。続いて両部門発表者との質疑応答、審査講評・表彰、二若信彦副委員長による大会宣言朗読の後、半澤善幸監事による閉会の辞をもって全日程を終了しました。



こどもギャラリー表彰でサプライズゲストのくまモン登場

◀ こどもギャラリーで特選に輝いた清水胡遥さん

酪農経営発表の部 審査講評

福田 晋 審査委員長

今回の審査に当たりましては、収益性、安定性、飼養管理技術、資源循環型酪農の実践、食品の安全性への配慮、組合・地域活動の貢献という6つの大会審査基準に基づき、厳正な審査を行いました。

域活動にも熱心に取り組んでいる様子が見え、審査委員一同大変感銘をうけました。

発表された6名の方々は、それぞれに異なる立地条件の中で独自の経営理念に基づきながら、経営安定と収益性の確保のために努力されているだけでなく、自給飼料の確保、家畜排泄物の利活用、地

域活動にも熱心に取り組んでいる様子が見え、審査委員一同大変感銘をうけました。



ゆとりを大切に、放牧しながら高泌乳を目指す

北海道酪農青年女性会議 都築 岳志氏

都築牧場は、北海道八雲町の草地酪農地帯に立地し、本人と両親の3人の労働力で経産牛37頭を飼養しています。都築さんは道内での研修を経て26歳で就農し、平成24年経営継承されています。

10 haの放牧地での夏季放牧を基本としながら、22 haの採草地、4 haのデン

トコーン畑などの豊富な飼料基盤を活かして粗飼料自給率100%を達成しています。



デントコーンの収穫作業はコントラクターに委託し、過剰投資を避けるなどの工夫を行うことで借入金も抑制しており、kgあたり生乳生産原価67円と低コスト生産を行いながら経産牛1頭当たり乳量9,017 kgをあげ、所得率26.8%と高い収益性を実現しています。

既存の施設を上手く生かしながら作業の効率化を行ってこれましたが、今後、給餌作業などでの一層の作業の効率化が期待されます。

挑戦どこまで引き出せる牛の力

西日本酪農青年女性会議 吉原 直樹氏



吉原牧場は岡山県津山市の酪農団地の典型的な山地酪農地帯に立地しており、本人と両親の3人の労働力で経産牛44頭を飼養しています。吉原さんは酪農科工

を増産しており、2万kg突破牛を産出するなど、経産牛平均乳量は11,790 kgを達成しています。

士のお勤めを退職した後、平成16年に就農し、平成23年に若くして経営移譲を受け、経営者としての資質を身に付けてこられました。

自ら人工授精師の資格を取り、牛群改良と個体管理に努め、乳牛の更新はすべて自家産、ET技術を駆使して高能力牛

ながら、自己資本での経営改善に努めており、借入金なしの健全経営を続けています。

山地酪農ゆえに、飼料畑の拡大には限界があるものの、今後も乳牛生産力を維持・増大していくことが期待されます。

「ゆとりあるカウコンフォートをめざして」

牛のゆとり、人のゆとり、経営のゆとり

関東甲信越酪農青年女性会議 宮澤 智浩氏



宮澤牧場は、茨城県小美玉市の平坦な畑作地帯に立地しており、本人と奥様、長男の家族労働力と3人の研修生によって経産牛126頭の大規模経営を営んでいます。

宮澤さんは会社員を経て平成12年に就農、翌年には経営を継承して経営者として経営改善に取り組み、平成15年にフリーバーン牛舎を新築したことで規模拡大を行いました。

フリーバーンにすることで作業が効率

化され、トウモロコシ収穫作業はコントラクターに委託し、発情発見器を導入することなどでゆとりある経営を目指してこれました。その結果、経産牛1頭当たり乳量9,815 kgを達成して、家族労働力1人当たり77.5万円という高い所得を実現しています。

今後、自給飼料基盤を拡大しながら、60頭規模の牛舎増設と増頭を計画しており、一層の持続的安定経営の達成が期待されます。

体も心もバランスよく継続できる酪農経営

～フリーストール牛舎建設、TMR給与で省力楽農～

中部酪農青年女性会議 桑原 卓也氏



桑原牧場は、静岡県掛川市の東名高速道路沿いに立地し、本人と両親の家族労働力で66頭を飼養しています。酪農協の独自の取り組みによるコントラクター・TMRセクター事業に参加し、6haの畑はコントラクターに貸し付けてデントコーン栽培を委託しています。また、糞尿処理・堆肥化の作業もコントラクターに委託して農地への還元を行っています。生産されたTMRは、フリーストール牛舎にしたことでセンターのバラ積みト

ラックで配送、給餌されています。このように、酪農協管内での地域資源循環型の酪農を実践しており、その結果、自給飼料生産に時間を割くこともなく、1頭当たりの飼養管理労働時間を81:3時間と大幅に節減しており、繁殖と搾乳・飼養管理に専念することを可能にしています。今後は、経産牛150頭、乳量10、000kg、1日6時間労働で週休2日のゆとりある経営を目指しており、新たな経営のステージへの発展が期待されます。

牛の健康を意識した牛舎改造と飼養管理

～安全・安心な高品質生乳生産に向けて～

九州酪農青年女性会議 齋藤 潤也氏



齋藤牧場は、西日本でも有数の酪農地帯である熊本県菊池市に立地し、本人と両親の家族労働力により経産牛42頭を飼養しています。本人は平成10年に就農し、実質的に経営者の機能を担っています。平成13年には生協への指定産地牛乳の供給を開始し、14年に一部フリーストール設置、TMRミキサーを導入して、16年に牛の動線を考慮した畜舎改造を行い、完全フリーストール化しています。とうもろこし収穫にはコントラクター、牧

草生産には機械銀行を活用し、労働ピークの軽減と投資の抑制に努めて、経産牛1頭当たり飼料生産延べ面積32.9aと22.9%の高い土地利用を達成しています。その結果、高品質で生産性の高い生乳生産のもとに、所得率22.2%、経産牛1頭当たり28万円の高い収益性を実現しています。今年度から奥様も就農されるとのことです、週休1日のゆとりある経営の実現が期待されます。

地域と共に歩む酪農

～夫婦の歩んだ40年～

東北酪農青年婦人会議 橋本 あき氏



橋本牧場は、福島県郡山市に立地し、夫婦2人で経産牛31頭を飼養しています。橋本さんは昭和48年に結婚し、50年に現在の牛舎の原型ができています。昭和25年に設立された共有地の牧野利用組合による牧草生産、平成15年からは機械利用組合による稲WCSの生産を行っています。また、原発事故以降、自給飼料を利用することができず購入飼料依存型を余儀なくされています。従来からnon-GMO牛乳を供給し

ており、高い乳質を誇る生乳生産を続け、今日、生産者指定牛乳に変わっても高品質生乳生産を維持し、家族労働力1人当たり55.7万円という高い収益性を実現しています。また、婦人部活動や地区内にある、ふれあい牧場の牧場祭りでの生産者指定牛乳の販売にも積極的に参加しています。今後は牧草共同生産や稲WCSの利用を復活させ、預託事業を活用しながら生産性を向上させたいうえで、将来の後継者への継承が期待されます。

以上、今回発表された6名の方の経営は、いずれも地域を代表する優れた経営でありますので、優劣を判断することは容易ではありませんでした。その中で、高い土地利用と粗飼料自給率のもとで、高泌乳、高品質の生乳生産を実現し、その結果、高い所得率と経産牛1頭あたり所得を確保していること

経営に対して、審査員一同から特別賞を授与することが決定されましたことを付け加えます。今回、発表された6名はいずれも与えられた環境条件をうまく利用され、極めて優秀な経営を実現されており、会場にお越しの皆様におかれましては、6名の方々の発表をお持ち帰りいただき、それぞれの経営や地域の酪農の発展のためにご活用していただければ幸いです。

齋藤潤也さんの経営を最優秀とさせていただきます。なお今回、原発事故以降、自給飼料を利用できない環境に置かれながら、高い収益性を実現している、橋本あきさんの

以上で講評ならびに審査結果の発表を終わります。

(酪農意見・体験発表の部は次号に掲載します)



■プロフィール

名前：半澤 善幸（44歳）

役職：東北酪農青年婦人会議役員

平成20年8月～3期目：5年目

全国酪農青年女性会議役員

平成24年8月～1期目：1年目

宮城県丸森町で経産牛190頭、哺育・育成
100頭（うち60頭預託）、黒毛繁殖5頭、黒毛
育成50頭飼養

今回は、全国酪農青年女性
会議 半澤監事にお話を伺
いました。

就農の経緯

普通科高校を卒業後、北海道の酪農学園大学に進学しました。在学時に中学理科・高校生物の教員免許を取ったこともあり、教員になろうと思っていました。しかし、大学4年のときにゼミの先生から「海外に酪農実習へ行ってみないか」との話を受け、カナダ オンタリオ州のプレーランド牧場で1年間実習しました。搾乳牛を約70頭飼養するブリーダーで、個体販売を行い、共進会にも出品する牧場でしたので、実家の牧場との違いを感じて愕然と

夢を持ちたいと思っても、
頭の中でプランがなければ
夢を描くことさえできないので、
発表大会が少しでも
その手助けになればと思います。

しました。芝生に囲まれたきれいな牛舎。牛体も綺麗で体型も素晴らしい…。実家の酪農の姿しか見ていなかったため、そのような酪農の姿を思い描いていたことがなく、本当に目から鱗でした。酪農に対するイメージが変わり、やっぱり酪農をやるうーと思えたきっかけとなりました。

夢を持って日本へ帰ってきましたが、現実には厳しかったですね。カナダから2頭購入し、良い系統を作ろうと試行錯誤を繰り返していました。25歳（平成7年）で結婚したこともあり、収入を増やさないとけない、そのためには牛に快適な環境を作らないといけない、という想いから国内外で視察に行き、平成9～10年に補助事業を利用しながら、パーラー、フリーバーン牛舎、糞尿処理施設を建設しました。同時に増頭も進め、平成10年の春には



半澤牧場フリーバーン牛舎



半澤牧場育成牛舎 (ET和牛)

100頭を超え、現在は経産牛190頭を飼養しています。当時は約1億5,000万円の借入をしましたが、平成24年度末に返済することができました。

今後の目標は今の頭数規模を保ちつつ効率の良い経営を目指し、収益性を上げることです。現在、以下のサイクルが来ています。

牛の病気を減らす↓更新が減る↓
余った腹に和牛受精卵を活用↓和牛
子牛を出荷し、副産物からも収益増

そのためには受精卵を止めてくれるスタッフや、周産期病をなくすための飼養管



渋谷「こどもの城」での父乳イベント

理など、技術の裏付けが必要です。TMRの混合方法や乾乳管理を工夫した結果、周産期の病気が減り、更新も減りました。判別精液や体外受精も活用することで、後継牛を確保した残りの腹は和牛の受精卵移植を行っています。現在は年間50頭程度ですが、年間100頭を目標にしています。牛乳生産も年間2,000tを目標にしており、基礎をしっかりとしながら副産物でも儲かる経営を目指しています。

また、海外では既に取り入れています。が、遺伝子レベルで優良な後継牛を確保することも重要だと考えています。効率の良い牛を確保し、効率の良い経営を目指したいです。

酪青女との関わり

14年前から宮城県ホルスタイン改良同志会の会長に就任し、後継者育成、経営参画に取り組んだことがきっかけで周囲の酪農家との繋がりが出来ました。酪青女の役員は5年前からやっていますが、どちらも繋がりを作り、人間的に豊かになれる。心をつくる「チャンスを得ること」ができたと思います。

東北会議の特徴

東北の方は、初対面ではシャイな方が多いように感じますが、仲良くなると会話がとても弾みます。派手さはないですが、何事も地道にコツコツと取り組む方が多いと思います。東北会議の特徴としては、毎年、渋谷区少年団体連盟と協力して、東北の酪農家と関東の子供達を互いの家にホームステイしたり、渋谷「こどもの城」にて毎年父乳イベントを行っています。東北の酪農家も頑張っていることを伝えられる良い機会ですし、安全な餌を食べた牛が出した牛乳を提供していることも理解していただけたらと思います。

若手後継者に向けて

年代の若い方達は、将来の不安から規模拡大に躊躇するなど、前向きな考えが出来なくなっている方もいらっしゃると思います。

そのため、発表大会などで上手に経営

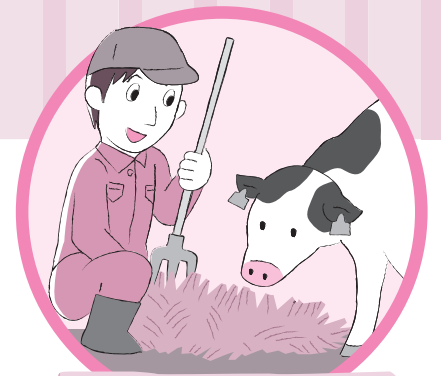


第42回大会にて閉会の挨拶を行う半澤監事

をなさっている方達の話を聞き、繋がりを持つことで将来のきっかけ作りができれば嬉しいです。発表大会は夢を実現した人たちと交流できる場だと思っています。夢を持ちたいと思っても、頭の中でプランがなければ夢を描くことさえできないので、発表大会が少しでもその手助けになればと思います。

第42回全国大会を終えて

気候も暑く、心も熱く、意欲を持った熊本で地味な全国大会を開催できたことは、とても意味のあることだと思っています。来年は宮城県仙台市で開催予定です。震災4年目になりますが、宮城県から元気を発信できるぐらい、今も復興に向けて取り組んでいます。熊本から宮城へ、熱い想いをつなげていきたいです。



若手後継者の

本音

Vol.3

目標は共進会上位入賞！ 牛群改良に挑む若手酪農家

千葉県八千代市 関谷 亮太さん



搾乳牛舎と亮太さん

概況

今回取材させていただいた関谷牧場は、八千代酪農農業協同組合（稲垣雄一代表理事組合長）に所属し、経産牛45頭、育成牛20頭を飼養しています。現在、主に経営に携わっているのは、経営者である勝利さん、奥さまのきよらさん、息子さんの亮太さんの3名の家族体制で行っています。

今回は後継者である亮太さんに詳しくお話を伺いました。

就農のきっかけ

幼少時代から酪農家である父親の仕事を見て育ってきましたが、正直なところ学生時代（特に中学・高校生だった頃）は将来的に牛舎に入って父親と同じ仕事をするとは考えてもいませんでした。家族にもそのこ



◀ 亮太さん(左)と本会担当者(右)

とを伝えていた程です。

しかし、学生時代を終えていざサラリーマンとして働いたとき、その当時の仕事が自分に合った仕事であるとは感じられませんでした。それ

を機に転職を考えた時、自分の父親の仕事がすぐそばにあることに気づき、仕事を手伝いはじめたことが現在も酪農に従事しているきっかけになっています。

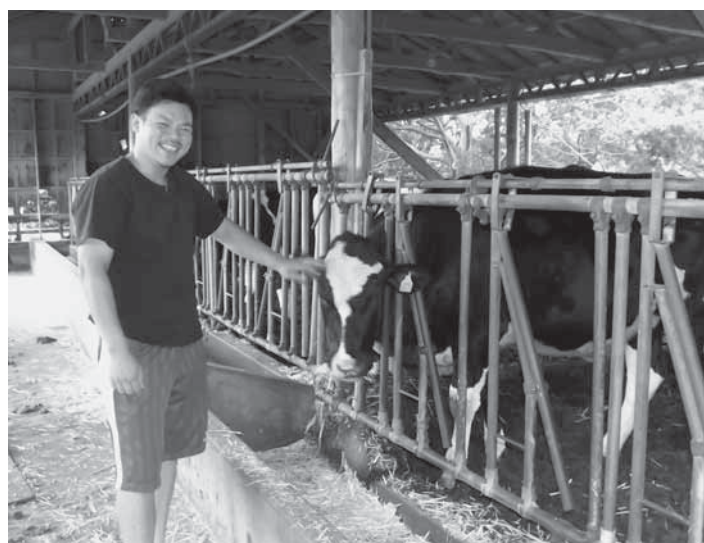
現在の仕事と、社会人時代の仕事とを比べてどう感じられていますか？

現在、我が家は家族3人体制で毎日仕事をしています。作業分担も決められています。全員が作業全般をこなしますので、効率良く作業できています。それでも最低限の労働

時間を考えると、朝は5時間、夕方は4時間、1日合計9時間、なおかつ牛たちの休みの無い仕事です。で、サラリーマン時代と比べても決して楽な仕事では無いと感じています。しかし、楽しさとやりがいを持ちながら日々仕事ができていると感じています。

現状のやりがいと、今後の目標について教えてください

現状として、我が家のある八千代市を含めた周辺の酪農家の立地条件は、かつての田園風景からかなり都市化・宅地化が進行し、



コンコルド ブラックキャビア フィーバーと！

農地拡大の余地も減少してきているというのが現実です。こうしたこともあり、規模拡大は難しいかなと感じています。しかしながら、現状の牛群を改良したいという想いがあります。目標としては「みんな良い牛にする」と。つまり、牛群全体の底上げをしたいと考えています。

改良については「我が家で繋いできた血統のルーツを大切にしながら改良していく」と

◀ 仔牛たちへの愛情はひとしお!!



いうことをひとつのこだわりとしています。種付けの仕事を任されてから今年で3年になりました。任された始めたころの血統が、徐々に牛群でも活躍し始めていることもあり、今後が楽しみです。やがて大きなやりがいを持って取り組んでいます。

牛群改良の背景には共進会への参加もあると伺いましたが？

昨年度は千葉県のブラックアンドホワイトショウを含め、共進会へ出品しています。そこで出会った仲間たちと情報交換をしながら様々な技術について実践しています。

現状の目標は、以前出場しつも思うような順位を取れずに悔しい思いをした、関東地区ホルスタイン共進会で上位入賞すること。種選びについては今のところ、体型と骨格、乳器を重視しています。育成体系(特に哺育期の管理)などを含めた全般でこだわりをもちて挑戦していければと思っています。

次回千葉県内で出品予定の育成牛も、個人的には順調にいていて感じていますので、ぜひ良い順位につけてくれればと期待している次第です。

今回のインタビューで、「飼料高騰や、T P P参加によって発生する問題点など、まだまだ勉強不足」と語りながらも、今後について考えている姿は非常に頼もしい亮太さん。また、こだわりの牛の話になると笑顔でさわやかに対応してくださったのも非常に印象的でした。

将来的には牧場主になる亮太さん。現在、花嫁募集中です。さわやかな笑顔を間近でご覧になってみませんか？応援します！

札幌
支所発

酪農生産研究会総会開催

6月25日(火)、札幌市第二水産ビルにて酪農生産研究会の第19回通常総会が開催され、会員農協より担当6名が出席しました。平成24年度実績や平成25年度事業計画が議題に上り、すべてが可決されました。総会終了後は本会酪農部生乳共販課 佐藤

弘課長を招き、「最近の生乳需給をめぐる情勢について」と題しまして講演会を開きました。講演では生乳生産情勢や、25年までの用途別の生乳需給量の推移や予測が解説されました。

(T.K)



◀ 総会の様子



講演会 ▶

本所発

(株)日本アクセス主催「フードコンベンション2013東日本」にて本会酪農部が新商品を紹介！

7月24日(水)～25日(木)、さいたまスーパーアリーナにて(株)日本アクセス主催の「フードコンベンション2013東日本」が開催されました。今年は(株)日本アクセスが20周年記念ということもあり、出展した食品会社は450社を越え、過去最高の1万1千人が来場しました。各社とも、量販店や仕入れ担当の方に新商品を含む自社商品を積極的にPRする姿がみられました。どのブースにも来訪者が後を絶たず、

会場全体が活みなぎる雰囲気となりました。

本会酪農部も春季展示会に引き続きブースを出展。定番商品である『おいしいスモークチーズ』の新商品“ガーリック&バジル”味をお披露目し、来場者の方から大変好評でした。おつまみとしてはもちろん、味が濃すぎないためお子様のおやつとしても頂けます。

(K.S)



▲ 活気溢れる会場



◀ 新商品のガーリック&バジル味



本会商品が
ずらりと並ぶ ▶

仙台
支所発

第20回スポーツ交流会を開催！

— 岩手中央酪農業協同組合 —

7月6日(土)、岩手中央酪農青年婦人会議（小笠原幸子委員長）主催のスポーツ交流会が、岩手県八幡平市「いこいの村岩手」で盛大に開催されました。

開会式で、小笠原委員長から「第20回の記念大会として、青空の下でグランドゴルフを予定していましたが、生憎の雨模様となり急遽体育館での開催となりました。怪我に注意して存分に楽しんでください。」と挨拶がありました。そして、八幡平地区の齋藤健さんの選手宣誓でスポーツ交流会が始まりました。

参加者は、当初115名から約80名程度の参加となりましたが、県内7地区に分かれ、各競技に上位から7、6、5…2、1と得点が与えられ、その合計得点で地区優勝を争います。

競技は、玉入れ、風船割り、ボール送り、ムカデ

競争等の参加者全員が参加できる競技が用意されましたが、急遽プログラムが決定された影響か、ルール説明をきちんと聞いていなかった影響か、ボール送りでやり直しとなり最下位となった北岩手地区やムカデ競争で何故か前に進むのが遅かった職員チーム等もあり、会場は終始笑いと歓声で包まれていました。

競技の結果、優勝は玉山地区、2位は二戸地区、3位は北岩手地区になりました。

競技終了後は、全員で昼食となり、ビール片手にバーベキューと八幡平地区婦人部の手作りの漬け物に舌鼓を打ちながら、久しぶりに会う仲間たちと酪農情報の交換はもちろん、近況を報告し合ったりと大いに親睦を深めました。

(N.T)



▲ 開会宣言 山中博喜副会長



▲ 選手宣誓 齋藤 健さん



▲ 優勝した玉山地区の人達



◀ 玉入れに夢中



▲ 懇親会風景

名古屋
支所発

飛騨高山ケーブルテレビ ヒットネットTV 「副市長の企業訪問 飛騨牛乳」 ユーチューブにて配信！

6月25日(火)、行政と協同組合の連携で、飛騨酪農農業協同組合（馬瀬口弘志代表理事組合長）にて高山市役所と飛騨高山ケーブルテレビ「ヒットネットTV」の協力で、『ハイ、市役所です』においての新シリーズ「副市長の企業訪問」のコーナーで高山市役所西倉良介副市長が飛騨酪農農業協同組合を紹介されました。当日の収録は、牛のオブジェの前から撮影が始まり、通常の見学では入ることのできないミルクプラント内を紹介しました。「安心・安全・おいしい飛騨牛乳」の秘密が今回の放送でわかるかもしれません♪

今回の収録はケーブルテレビに加入されていない方でもユーチューブからも見るができますので是非ご覧ください。そしてこの取り組みで少しでも酪農のことを知ってもらい、乳製品の販売促進に繋がればと思います。

（飛騨酪農農業協同組合 酪農部 丸山雅義）



◀ 飛騨牛乳の牛オブジェの撮影映像

牛乳で乾杯する副市長 ▶



◀ 本番撮影中！



は「ハイ、副市長です(2013年7月)」

大阪
支所発

全酪連近畿中四国酪農団体協議会 新会長に東山おかやま酪農協組合長就任

6月14日(金)、全酪連近畿中四国酪農団体協議会の平成25年度（第28回）通常総会がメルパルク大阪で開催されました。

近畿中四国酪農団体協議会は、大阪支所管内の28会員が加入し地域の酪農業の発展と振興を図り、会員相互の連携を強化することを目的に活動しています。当日は、22会員が出席（委任状出席含む）され、提案された全議案が審議され承認されました。



▲ 総会で挨拶する幅田会長

また、今期は役員改選に当たり、永年会長をつとめられた幅田大山乳業農協組合長に代わり、おかやま酪農農業協同組合の東山基組合長が新会長に選任されました。



▲ 東山新会長

今年度の事業計画は、8月に管外視察研修会を熊本・宮崎方面、11月に管内視察研修会を淡路島酪農協にて開催する予定となっております。

当日は、全国農業会議所農政・企画部の阿久津考査役を講師にお迎えして「農業経営継承事業の現状と課題（酪農分野を中心に）」と題した研修会を行い、酪農基盤の維持・拡大に直面している酪農業界の経営継承の課題等について研鑽を深められました。

(S.T)



No.243
釧路丹頂農協幌呂支所
植田牧場
北海道鶴居村

50年以上続く、牛群改良の系譜

地域の紹介

今回ご紹介する植田牧場がある北海道阿寒郡鶴居村は、釧路市の北側に位置し、北に阿寒連山、南に釧路湿原を臨む自然豊かな地域です。村名は特別天然記念物のタンチョウに由来し、毎年多くのタンチョウが飛来、営巣し子育てをしています。気候は冷涼ですが、内陸型気候のため冬の降雪も少なく、比較的温暖です。産業は酪農・農業が盛んで、前述のタンチョウ見物のため、観光業にも力が入られています。

植田牧場は釧路丹頂農業協同組合（武藤清隆代表理事組合長）に所属しています。釧路丹頂農協は、平成18年6月に旧JAつるい、旧JA幌呂、旧JA白糠町、旧JAおんべつの合併により発足しました。酪農家戸数160戸、出荷乳量は100,811t（平成24年度実績）です。

経営概況

植田牧場は現在、経産牛150頭、育成牛を130頭飼養しています。自給飼料はグラスサイレージ75ha、デントコーン21haを作付けしており、この他に放牧地を10ha擁しています。年間出荷乳量は、平成24年度実績で1,350tです。家族構成は経営主の紘史さん（35）、奥さんの牧さん（36）、息子の蒼生くん（4）、

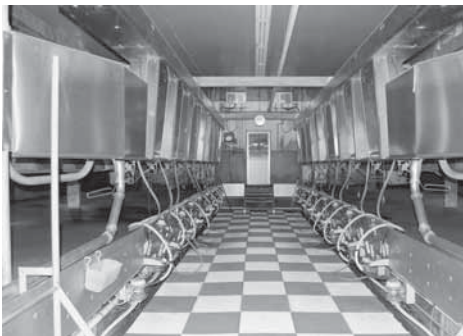


看板

牧場を上空から ▶



自作の繁殖カレンダー ▶



◀ 搾乳室



バンカーサイロ ▶

月	日	種別	種番	種名	種年	種月	種日	種別	種番	種名	種年
1	1	種	1	種	1	1	1	種	1	種	1
1	2	種	2	種	2	1	2	種	2	種	2
1	3	種	3	種	3	1	3	種	3	種	3
1	4	種	4	種	4	1	4	種	4	種	4
1	5	種	5	種	5	1	5	種	5	種	5
1	6	種	6	種	6	1	6	種	6	種	6
1	7	種	7	種	7	1	7	種	7	種	7
1	8	種	8	種	8	1	8	種	8	種	8
1	9	種	9	種	9	1	9	種	9	種	9
1	10	種	10	種	10	1	10	種	10	種	10
1	11	種	11	種	11	1	11	種	11	種	11
1	12	種	12	種	12	1	12	種	12	種	12
1	13	種	13	種	13	1	13	種	13	種	13
1	14	種	14	種	14	1	14	種	14	種	14
1	15	種	15	種	15	1	15	種	15	種	15
1	16	種	16	種	16	1	16	種	16	種	16
1	17	種	17	種	17	1	17	種	17	種	17
1	18	種	18	種	18	1	18	種	18	種	18
1	19	種	19	種	19	1	19	種	19	種	19
1	20	種	20	種	20	1	20	種	20	種	20
1	21	種	21	種	21	1	21	種	21	種	21
1	22	種	22	種	22	1	22	種	22	種	22
1	23	種	23	種	23	1	23	種	23	種	23
1	24	種	24	種	24	1	24	種	24	種	24
1	25	種	25	種	25	1	25	種	25	種	25
1	26	種	26	種	26	1	26	種	26	種	26
1	27	種	27	種	27	1	27	種	27	種	27
1	28	種	28	種	28	1	28	種	28	種	28
1	29	種	29	種	29	1	29	種	29	種	29
1	30	種	30	種	30	1	30	種	30	種	30
1	31	種	31	種	31	1	31	種	31	種	31

ご両親の見雄さん（74）、喜恵子さん（72）の5人家族です。労働力は紘史さん夫婦と、従業員を合わせて5人。作業は紘史さんが搾乳、畑作業、飼養管理など牧場全般の仕事を、奥さんは哺乳と労務管理をしています。ご両親も折を見て作業の補助を行っています。従業員3人は治療牛舎、飼料調整、繁殖管理等を行っています。また、別に搾乳パートも2人雇用しています。

植田牧場の歴史

現経営主の紘史さんの祖父、薫明氏が鶴居村に入植したのは、昭和元年のことです。もともとは十勝地方にて畑作を行っていましたが、畜産経営を夢見て移り住んできました。当時は馬産を主としていましたが、昭和35年ごろから酪農経営に転換しました。昭和39年に2代目の父・見雄さんが牧場を継ぎ、国の施策である農業構造改善事業などを導入し、酪農規模拡大、草地酪農を基本とした造成整備を図り、乳牛の資質改良に力を入れてきました。その努力は、第8回（昭和60年）、第9回（平成2年）の全日本ホルスタイン共進会にて連続で最高位である名誉賞を受賞、さらには平成3年度農林水産祭畜産部門において天皇杯の拝受と、見事に実を結んでいます。

現在の経営主の紘史さんは3代目



牛群

頭ダブルのヘリンボンパーラーも新設しました。

経営方針

●飼養管理

飼養管理については、TMR給与でその中身はキザミのグラスサイレージとデントコーンサイレージ、全酪連配合飼料、あとは粗飼料の栄養成分に合わせるために単味飼料を利用しています。7年ほど前から酪農コンサルタントを導入し、飼養管理、牛群管理等指導を受けています。

にあたります。神奈川県に於ては、神奈川県の大学に通っていた時、両親の勧めでアメリカのウイスコンシン州のエバグリーンビュー牧場に1年間、イリノイ州のカローセルファームに半年間実習したのが就農のきっかけでした。紘史さんは専攻こそ動物工学でしたが、家業を手伝うことはほとんどなく、牧場を継ぐことも考えてもいなかったそうです。しかし、本場アメリカで真剣に酪農を営む人々と働き、その姿勢にとても感銘を受け、実家を継ぐことを決意しました。帰国後、大学を卒業し、平成13年に経営を引き継ぎました。平成16年には128頭のフリーストール牛舎を新設。同時に8

●牛群改良について

前述の通り、植田牧場では牛群の改良に非常に力を入れてきました。現在も育成牛は自家育成とし、良質な牛群の系譜を刻んでいます。牧場から輩出した牛も好評で、平成12年第11回全日本ホルスタイン共進会にて永禮淳一氏が名誉賞を取った『オラホーム ブレンダ デュリーガル スター ET』は、植田牧場で生産された牛でした。

絃史さんが経営を引き継いだ平成13年からは北海道ホルスタイン共進会に連続出場しており、平成24年度には未経産ジュニアクラスにおいて『アワープライド シド ブルーミン』が1等賞1席を受賞しました。



ジュニアクラスで1等賞



共進会に向けて特訓中！

絃史さんに改良のコツをうかがうと、「綺麗で華奢な牛になりすぎないよう、丈夫でこつすぎる牛にならないよう、バランスを取るように心がけている」とのことでした。また、最近では体型よりも能力の改良に意欲的に取り組んでいるとのことでした。

今後について

現在、治療牛や、育成牛を旧牛舎にて飼養しており、牛の動線、人の動線において作業効率が悪い状態だそうです。「今後は搾乳頭数で180頭くらいまで規模拡大を目指し、それに伴って哺育舎、育成舎、乾乳舎を新設し作業の効率化を図りたい」とのことでした。また、現在は繁殖成績を向上させるために、繁

殖管理3週間カレンダーを自作して妊娠率を計算するなど、様々な工夫に取り組んでおられます。この成果を維持し、健全で安定した経営を目指したい、と絃史さんは語ってくださいました。

絃史さんは現在、大型機械利用組合を利用し、近隣の若い後継者たちと共同作業で牧草収穫を行っていただきます。また地元の普及センターと共同で、5年間良質サイレージを収穫する試みに取り組んでいます。しかしながら、地域全体に目を向けると高齢化や、後継者不足などで経営戸数が減少しています。今後も今のままでは酪農家戸数の減少に歯止めがかからないと思い、地域を守るためにという思いからTMRセンターの設立を検討しているとのことでした。

最後に

時節柄畑作業でお忙しい中、快く取材に応じてくださいました植田牧場の皆様に、心よりお礼を申し上げます。今回取材させていただいた中で、牛群改良に情熱を注いできた植田牧場歴代経営主の方々の姿勢に、とても感銘を受け、またその重要性を再認識いたしました。

今後とも植田牧場の更なる発展とご活躍をお祈り申し上げます。

(M・M)

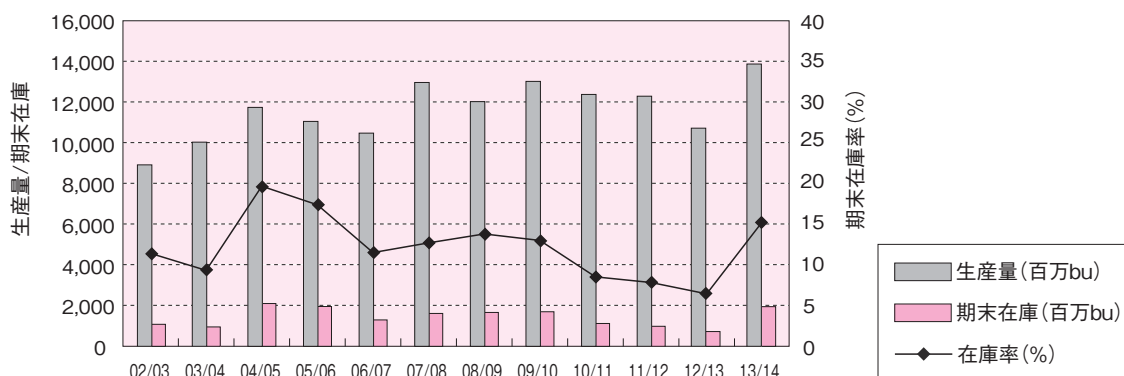


牛舎

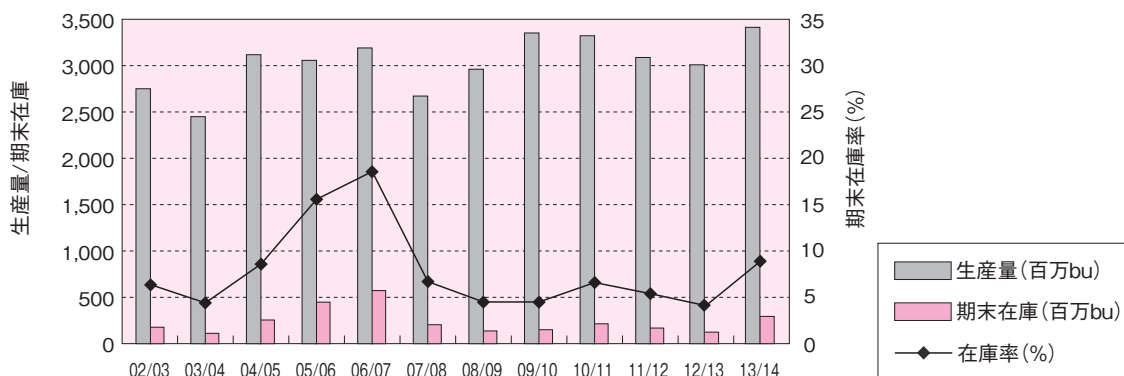
原料情勢 平成25年7月

7月11日発表 米国農務省トウモロコシ 需給予想	【12/13年産】 作付面積97.2百万(前月97.2百万) エーカー、単収123.4(123.4) bu/エーカー、生産量107億8,000万(107億8,000万) bu、総需要量112億(111億5,000万) bu、期末在庫7億2,900万(7億6,900万) bu、在庫率6.5(6.9) %。 【13/14年産】 作付面積97.4百万(前月97.3百万) エーカー、単収156.5(156.5) bu/エーカー、生産量147億900万(140億500万) bu、総需要量127億5,000万(128億5,000万) bu、期末在庫19億5,900万(19億4,900万) bu、在庫率15.4(15.2)%。
トウモロコシ相場動向	6月上旬に650¢台を超える値動きをしていたが、作付意向面積が上方修正になり、また受粉期を迎える中西部で良好な天気予報が伝えられると、520¢台まで値を下げた。しかし、産地西部の乾燥による天候懸念、中国等との新規成約情報から値を上げ、560¢台に回復している。今後は、米国中西部の受粉期での天候が生産量に大きく影響を与えるため注目が集まる。以前として前年度産は希薄な在庫であり、端境期における供給懸念がある。
国内産大豆粕	米国産大豆需給予想の12/13年の期末在庫見通しは需給バランスに変化がなく、1億2,500万(1億2,500万) bu、在庫率4.1(4.1) %と変化なし。13/14年の期末在庫見通しは生産量が増加し需要が据え置かれたため、2億9,500万(2億6,500万) bu、在庫率9.0(8.1) %となっている。国産大豆粕発生量は大豆搾油採算の改善により増える見込みだが、以前の水準と比較すると低調なままである。需要は減少傾向だったが、今後は他原料の需給によっては使用量が増加する可能性もある。現時点で輸入大豆粕の入船は比較的安定しており、デリバリーに問題はない見込み。国産大豆粕価格については、在庫率の低さが意識され上昇傾向にあり、円安の影響も重なり強含みとなっている。輸入大豆粕についても現地価格が切り上がっており、国産同様強含みの展開となっている。
槽糠類	フスマの発生量は減少傾向で推移している様子。しかし、使用量も減少しており、需給は多少改善している。円安の影響から積極的に輸入する状況ではなく、今後使用量が増加すれば受け渡しに支障をきたす可能性がある。グルテンフィード発生量は増加傾向にあるが、需要も堅調であり、在庫は例年ほど積み上がってないと思われる。現時点で受け渡しに問題はないが、フスマの代替で使用量が増える可能性もあり、注意が必要。
海上運賃	原油市場は米国の好調な雇用統計、ニューヨークダウ市場が過去最高値を付けたことも影響し上昇気味で推移。海上運賃は南米の停戦、韓国の大手船会社の倒産などによる一時的な船腹不足から、若干強含みで推移しているが、夏場に向けた石炭需要の減少、新造船の導入により、今後は弱含み展開が予想される。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成25年7月

北米コンテナ船 フレート	船会社によって違いはあるものの、7-9月分のBAF（燃料費調整係数:燃料価格変動に対して調整される割増運賃）は、7月から概ね\$9の値下げが実施された。PNWでは、引き続き空コンテナが不足している。また、加速する円安の影響を受け、日本に輸出される貨物の値動きが悪くなってきている。特にPSWのロサンゼルス/ロングビーチ港では船腹スペースに余剰も出てきている模様。
ビートバルブ	【米国産】進捗が遅れていた13年産について、主産地のミネソタ州・ノースダコタ州では、95%以下の進捗にもかかわらず、作付が終了している。砂糖の相場価格が低調に推移していること、作付の遅れによる単収減の予想から、13年産の作付面積・生産量は減少することが予想されている。 【中国産ほか】中国産の13年産作付面積は、前年対比10%減が予想されている。国内市場の拡大が進み、国内向けの需要もさらに増えることが予想されているため、韓国や日本向けの輸出量は今後限定的となる見込み。世界的に砂糖の相場価格が低調に推移していることから、欧州産の13年産作付面積も前年対比約20%減が予想されている。
アルファルファ ヘイ	【ワシントン産】コロンビアベースンでは13年産の1番刈の収穫が終了した。今年も雨当たり被害が多く発生し、南部では90%が雨当たり品となった。ノーレイン品も、天候のタイミングを見計らって収穫したために刈遅れとなったスタックが多い模様。産地では、6月下旬から2番刈の収穫が始まっているが、1番刈で雨当たり被害を受けた圃場が多いことから、倒伏したり、きれいに刈り取れなかった1番刈りの残りが散見されるような、品質が良くないスタックが多く発生する懸念がある。 【オレゴン産】13年産の1番刈の収穫は、クラマス・クリスマス共に一部雨当たり被害が発生している。6月下旬の降雨で収穫が一時中断されていたが、7月上旬から天候が回復したため、収穫再開が見込まれている。 【ネバタ産】6月上旬から13年産の1番刈りの収穫が始まり、一部雨当たり被害が発生している。2番刈の収穫は7月上旬から始まる見込み。 【ユタ産】冷涼な気候の影響により13年産の生育は遅れ気味の模様。1番刈の収穫は終了したが、一部で雨当たり被害が発生している。 【カリフォルニア産】インペリアルバレーでは、13年産の4～5番刈の収穫が進んでいる。産地価格は上昇傾向で、国内向け・輸出向けの買付けが本格的に始まったことが伺える。
チモシー	【米国産】主産地であるコロンビアベースンとエレズバークでは、全体の60～70%が雨当たり被害を受けている模様で、昨年を上回る“史上最悪な厳しい作柄”であると言われ始めている。馬向けも酪農向けもハイグレードは非常に限定的で、確保は極めて困難となる見込み。軟化が予想されていた産地価格も堅調に推移し、さらに高騰することが予想されている。 【カナダ産】アルバータ州では、6月下旬に記録的な豪雨に見舞われた。洪水の被害が発生するなど、多くの住民が避難を余儀なくされており、復旧には時間がかかる見込み。ただ、チモシーについては、収穫が始まっていないこと、耐水性があることから現時点では大きな被害はないと見込まれている。しかしながら、降雨と気温の低下から生育は遅れ気味となっている模様。
スーダン	【インペリアルバレー産】デュラム小麦の相場価格が軟調に推移しており、産地では小麦の作付面積が前年の半分以上となっている。そのため、13年産スーダングラスは早播きの作付面積が増え、4/15時点で前年対比116%（25,091エーカー）となっていた。しかし、農業用水の使用制限の懸念から、6/15時点で前年対比86%（49,753エーカー）となっており、早播きの作付面積が増えても、早播きの2番刈りや小麦収穫後に播種する遅播き（アフターウィート）の生産量は減少することが予想されている。1番刈の品質については、収穫前に暑い気候が続いたこともあり、茎サイズにバラつきがあると伝えられている。茎細のプレミアム品も発生が少ないことから、軟化が予想されていた産地価格も、徐々に強含みに推移している模様。
クレイングラス	インペリアルバレーの6/15時点での作付面積は前年対比118%の16,675エーカー。2番刈の収穫がほぼ終了しており、早い圃場では3番刈りの収穫が始まっている。品質については、良品の発生が多い模様。韓国での在庫が重めであることから、韓国向けの引合いは引き続き弱まっている。
バミューダ	インペリアルバレーでの作付面積は6/15時点で前年対比101%の51,012エーカー。年々上昇している種子価格は引き続き高値で推移しており、ストローの発生量が多いと予想されている。
ストロー類	13年産の米国産ストロー類の収穫は、7月中に始まる見込み。現時点で天候に問題はなさそうであるが、韓国向けの引合いが堅調なことから、産地価格は軟化していない。
オーツヘイ	西、南、東の全ての輸出向け産地で、12年産はハイグレード品がほとんどで中間・ローグレードの発生量が少なく、雨当たり被害を酷く受けた11年産と真逆の作柄となった。一時期に比べると米国ドル対比で“豪州ドル安”で推移しており、日本側の輸入価格も若干弱含みで推移し始めている。産地では、13年産の播種が終了した。西・南豪州では5月に降雨があった影響で順調に播種が行われたが、東豪州では乾燥した状態が続いており、播種の遅れと、播種が終わった圃場での生育が懸念されている。この乾燥した天候の影響で、東豪州では国内向けの牧草価格が高騰していると伝えられている。キャノーラ（菜種）の相場価格が引き続き高値で推移していることから、13年産オーツヘイの作付面積は大きく減少することが早くも予想されている。

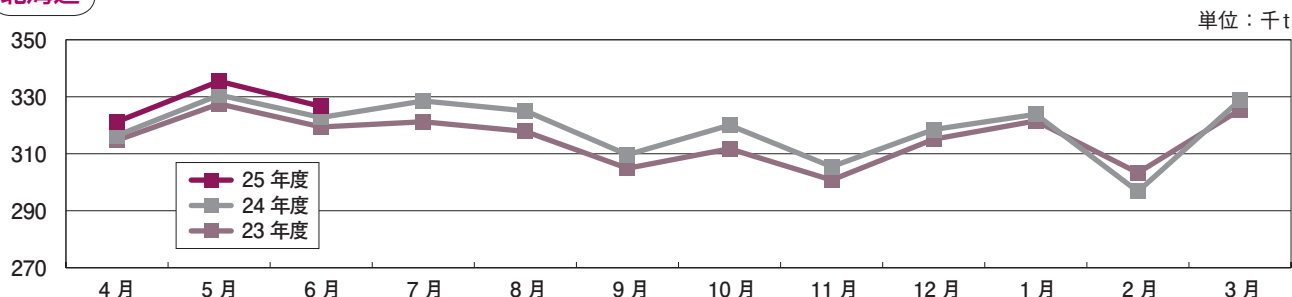
生乳受託販売乳量

受託販売乳量

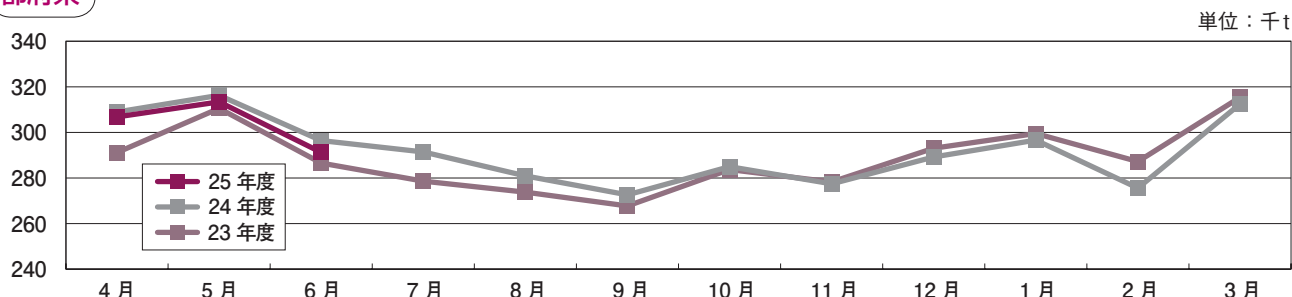
全国 617,849t で、前年同月に比べ 1,308t(0.2%) 減少した。
北海道 326,603t で、前年同月に比べ 3,870t(1.2%) 増加した。

都府県 291,246t で、前年同月に比べ 5,178t(1.7%) 減少した。

北海道



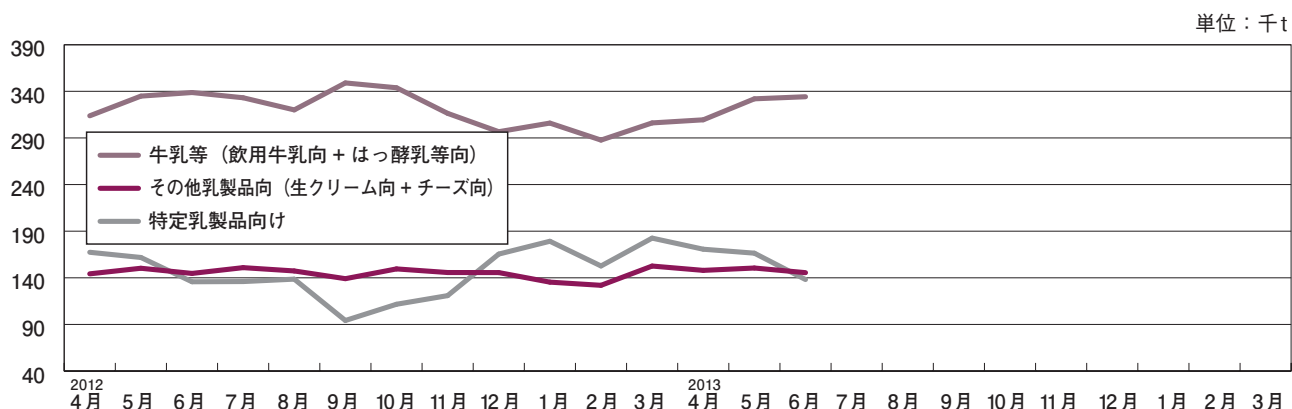
都府県



用途別販売数量

飲用向 291,311t で、前年同月に比べ 4,335t(1.5%) 減少した。
はっ酵乳向 42,858t で、前年同月に比べ 192t(0.4%) 減少した。
クリーム向 105,791t で、前年同月に比べ 171t(0.2%) 減少した。

チーズ向 39,728t で、前年同月に比べ 989t(2.6%) 増加した。
特定乳製品向 138,160t で、前年同月に比べ 2,401t(1.8%) 増加した。



各地の需給動向

* 前年比については、閏年修正を行っておりませんのでご注意ください。

- 【仙台】 6月生産は前年比 99.0%。飲用向けの需要は前年比 96.9%と、減少幅が拡大した。発酵乳は引続き好調を維持し、前年比 110.7%。
- 【関東】 生産は上旬から下旬にかけて減少傾向。6月全体では 99.0% となった。一方販売では、飲用牛乳向けが 101.3% と引き続き昨年の不振の裏返しで、3か月連続で前年を超えた。その結果特定乳製品向けは 95.5% となった。
- 【東海】 生産は上旬から下旬にかけ、減少傾向。6月全体では前年比 97.5% となった。
- 【近畿、中国、四国】 各産地とも例年より早い梅雨入りとなったが、上旬は雨も降らず猛暑が続いた影響で生産減少。6月全体では近畿 95.3%、中国 98.2%、四国 98.2% となった。一方需要は、生産減少の影響もあり逼迫したが、前年比で見れば減少傾向となった (飲用牛乳向け前年比：近畿 95.3%、中国 98.9%、四国 99.3%)。
- 【九州】 生産は上旬から下旬にかけ減少傾向。6月全体では 97.8% と前月に引き続き前年を下回った。販売は飲用牛乳向けが 98.5%、特定乳製品向けが 80.7% と減少傾向。一方生クリーム向けは 104.2% と増加傾向となった。

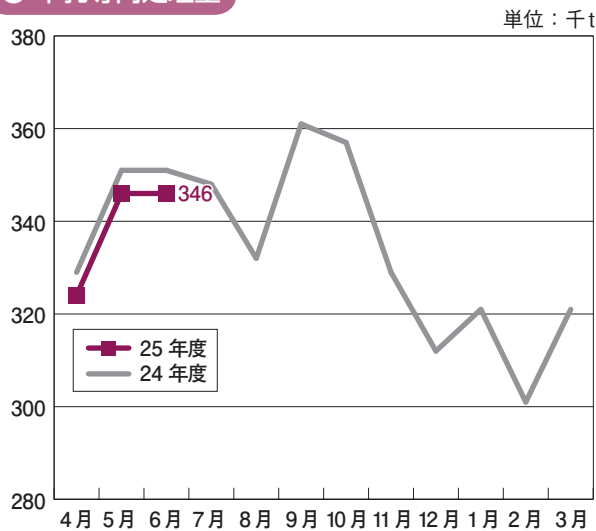
用途別生乳処理量

単位：千 t

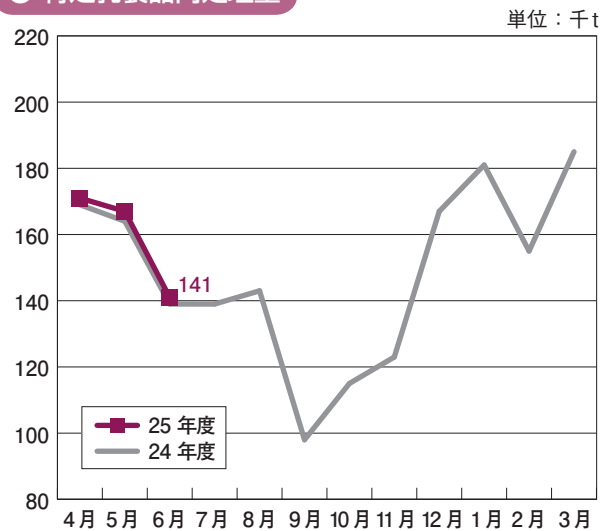
年月	生乳 生産量	用途別処理量計							年月	生乳 生産量	用途別処理量計						
		牛乳等向 ①		乳製品向		その他乳製品向					牛乳等向 ①		乳製品向		その他乳製品向		
				特 定 乳製品向 ②		クリーム向 ③	チーズ向 ④	特 定 乳製品向 ②						クリーム向 ③	チーズ向 ④		
2012. 4月	649	645	329	316	169	147	106	42	2013. 4月	650	645	324	321	171	150	106	44
5月	671	667	351	316	164	152	108	45	5月	671	666	346	320	167	153	107	46
6月	642	637	351	286	139	147	106	41	6月	638	633	346	287	141	147	105	42
7月	644	639	348	291	139	153	111	42	7月								
8月	630	625	332	293	143	149	107	43	8月								
9月	604	599	361	238	98	140	106	34	9月								
10月	628	623	357	266	115	151	111	40	10月								
11月	605	600	329	271	123	147	109	39	11月								
12月	632	627	312	315	167	148	108	40	12月								
2013. 1月	644	639	321	319	181	138	96	42	2014. 1月								
2月	595	590	301	289	155	134	96	38	2月								
3月	664	660	321	339	185	155	113	41	3月								
年度計	7,608	7,550	4,012	3,538	1,777	1,761	1,276	485	年度計	1,960	1,945	1,017	928	479	449	318	132

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

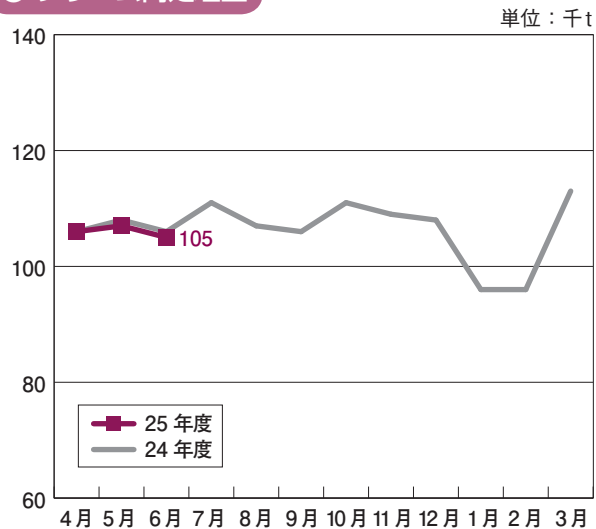
① 牛乳等向処理量



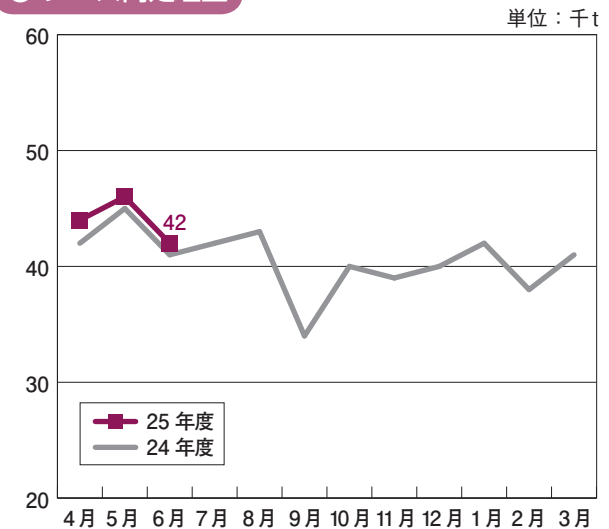
② 特定乳製品向処理量



③ クリーム向処理量



④ チーズ向処理量



特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

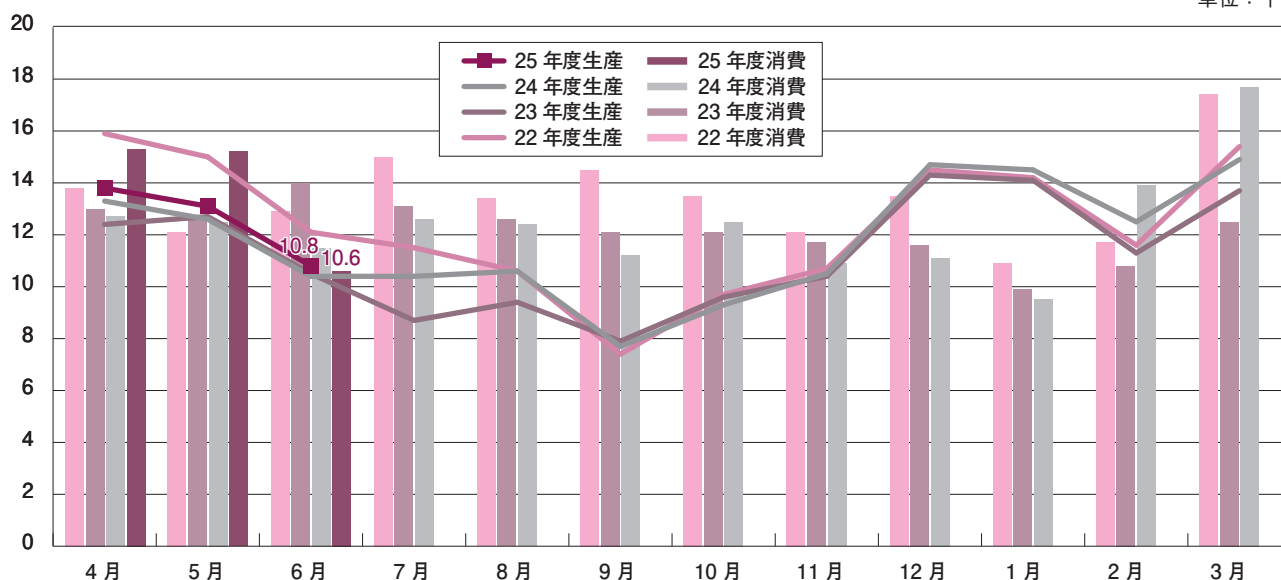
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2012. 4月	13.3	12.7	6.7	6.4	2013. 4月	13.8	15.3	7.0	7.9
5月	12.6	12.5	6.5	6.4	5月	13.1	15.2	7.0	8.4
6月	10.4	11.5	5.5	6.8	6月	10.8	10.6	5.7	5.6
7月	10.4	12.6	5.4	6.2	7月				
8月	10.6	12.4	5.6	6.0	8月				
9月	7.7	11.2	3.7	5.8	9月				
10月	9.3	12.5	4.3	5.6	10月				
11月	10.5	10.9	4.8	5.7	11月				
12月	14.7	11.1	6.2	7.8	12月				
2013. 1月	14.5	9.5	7.6	4.8	2014. 1月				
2月	12.5	13.9	6.3	6.5	2月				
3月	14.9	17.7	7.4	8.7	3月				
年度計	141.4	148.5	70.1	76.7	年度計	37.6	41.1	19.7	21.9

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

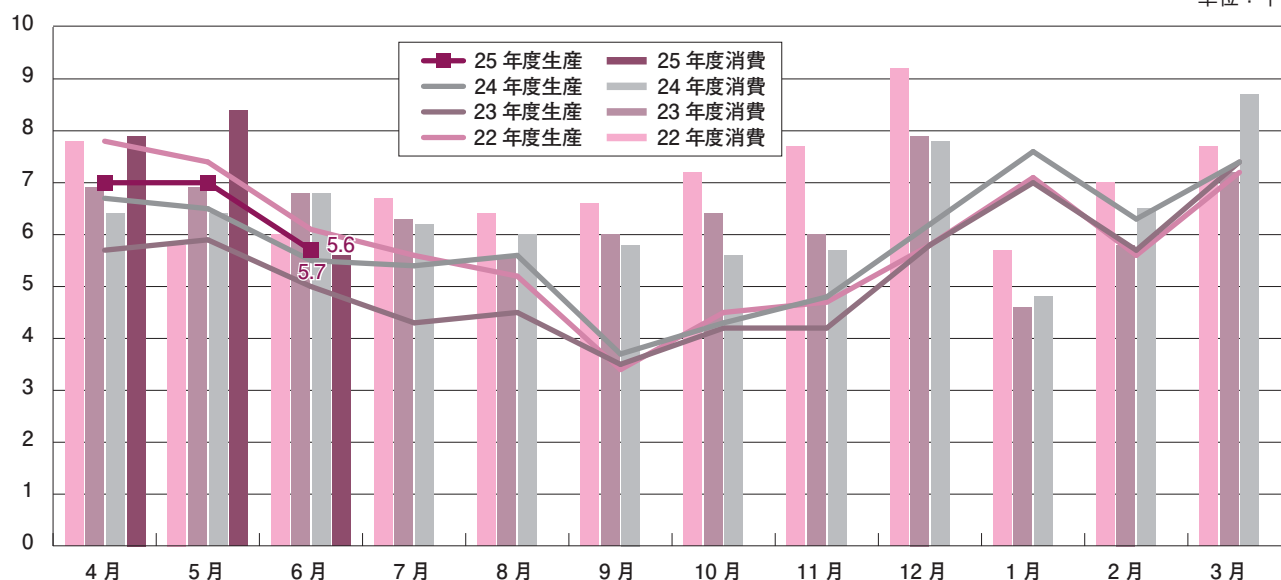
脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



バターの生産及び出回り量推移

単位：千t



脱脂粉乳・バターの国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

区 分	バター		脱脂粉乳		区 分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2012. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2013. 4月	24.4	1,177	51.0	600.65
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	25.8	1,178	53.2	600.50
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月	25.7	1,178	53.0	599.96
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月				
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月				
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月				
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月				
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月				
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月				
2013. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2014. 1月				
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月				
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				

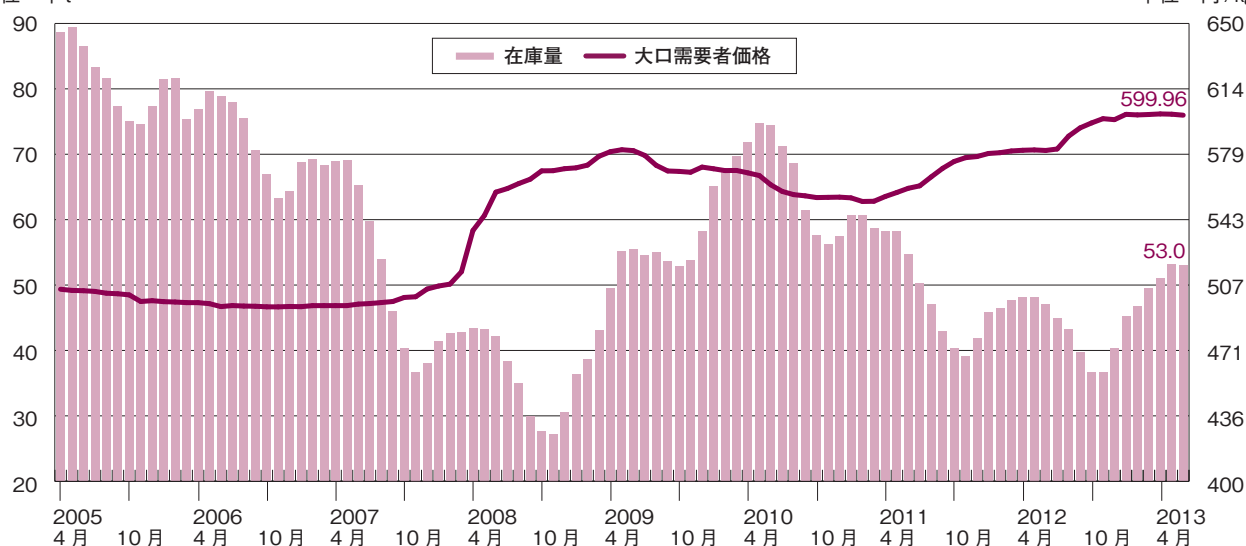
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

※単価は税抜き

脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：千t

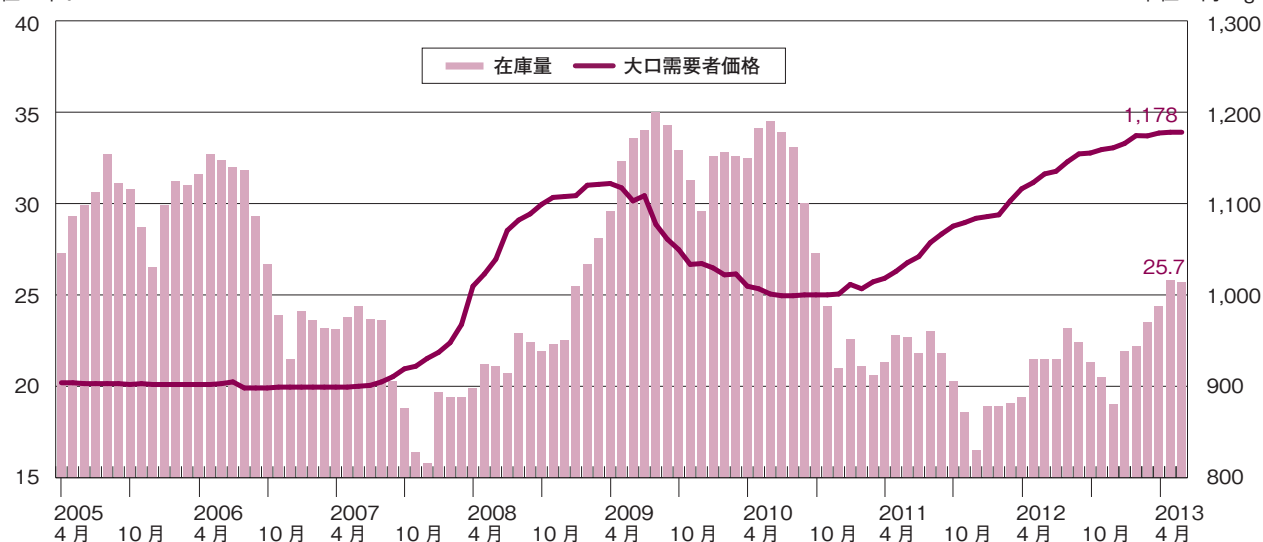
単位：円/kg



バター 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：千t

単位：円/kg



人事異動

新	旧	氏名
■平成25年7月1日付異動発令 狭山工場 品質管理課長 ■平成25年8月1日付異動発令 購買部 部長 兼 飼料製造課長 酪農部 生乳共販課長 仙台支所 次長 兼 酪農課長 福岡支所 支所長 購買部付外向 全国酪農飼料㈱ 本社 所場課長待遇	酪農部 乳製品工場課 副審査役 購買部 部長 兼 購買企画課長 兼 飼料製造課長 仙台支所 酪農課長 酪農部 生乳共販課長 福岡支所 支所長 兼 酪農課長 購買部付外向 全国酪農飼料㈱鳥栖工場 所場課長待遇	今 野 渉 梅 岡 正 人 高 橋 信 一 佐 藤 弘 徳 永 幸 男 藤 木 清 孝
■平成25年8月1日付昇格発令 管理部 情報システム課長代理 購買部 副部長 兼 購買推進課長 購買部 購買企画課長 購買部 酪農生産指導室 課長代理 仙台支所 購買畜産課長代理 福岡支所 酪農課長	管理部 情報システム課 副審査役 購買部 購買推進課長 購買部 購買企画課長代理 購買部 酪農生産指導室 課長代理待遇 仙台支所 購買畜産課 副審査役 福岡支所 酪農課長代理	鈴 木 元 明 岡 本 尚 之 岩 本 仁 志 丹 戸 靖 東 健 太 郎 近 藤 宏

新規就農 経営移譲

を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または全国農業会議所の全国新規就農相談センターにアクセスしてみてください。

酪農ヘルパー全国協会



<http://d-helper.lin.gr.jp/newfarmer/index.html>

全国新規就農相談センター



<http://www.nca.or.jp/Be-farmer/index.php>

全酪連のホームページから入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



全酪連ホームページのトップ

右下リンク

新規就農情報 [(一社)酪農ヘルパー全国協会]
新規就農情報 [全国農業会議所]

北海道 乳牛産地情報

平成25年8月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲.....強含み ▼.....やや強含み →.....横這い ⇩.....やや弱含み ↓.....弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	28~32	→	7月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計98.6%、累計で101.1%、苫小牧管内月計で94.4%、累計で97.3%の実績となっております。8月の初妊牛動向ですが、お盆明けの購買になることから10月以降の分娩になります。道内需要及び都府県の大規模農家の需要は依然としてあると思われますが、高値警戒感や初生牛の価格の変動により、やや弱含みの相場になるものと思われます。また、経産牛につきましては即戦力になるものについては高値で取引されるものと思われます。
	初妊牛	45~51	⇩	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~35	⇩	7月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で99.4%、累計で101.9%、中標津管内月計で97.6%、累計で100.2%の実績となっております。8月の初妊牛動向ですが、10月腹中心で取引され道内外のメガファームの導入が継続されれば、F1腹を中心に横這い、もしくはやや高めめの相場で推移されるものと予想されます。今のところ、内地からの購買予定は少ないですが、例年、盆明けから導入が開始されるため、購買予定がありましたら早めのご連絡をお願いします。
	初妊牛	48~55	⇩	
	経産牛	40~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	7月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で99.6%、累計で101.1%の実績となっております。8月の初妊牛動向につきましては、都府県からの購買希望は少ないですが、道内のメガファームの購買が継続されることが予想され、価格は横這いで推移するものと思われます。8月は、下旬の市場開催であり近い腹はすでに売られ資源は乏しいですが、10月以降の腹については豊富にあります。
	初妊牛	48~54	→	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	27~32	→	7月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で100.6%、累計で102.3%、北見管内月計で99.6%、累計で101.1%の実績となっております。特に稚内管内においては気候も涼しく、昨年のサイレージも良質であったため乳量も安定しております。8月の初妊牛動向につきましては、今夏の猛暑により都府県の購買需要は少ない見通しであり、初妊牛相場はやや弱含みで推移するものと思われます。各農協の情報によりますと、秋の分娩牛(10月以降)は放牧しており、資源は豊富にあるそうです。
	初妊牛	42~50	⇩	
	経産牛	35~42	↓	
道内総括	育成牛(10-12月令)	29~34	→	道内の7月中旬までの生乳生産量前年比は月計で99.0%、累計で101.0%となっております。8月の初妊牛動向ですが、お盆明けからの購買となるため、10月以降の分娩牛が対象になります。都府県からの注文は今のところ少ない情勢ですが、乳価の値上げもありメガファームの導入意欲は旺盛です。資源的には例年並みのことから相場的には横這いで推移するものと予想されます。放牧されている牛も多いため、購買の予定がございましたら早めのご連絡をお待ちしております。
	初妊牛	48~55	→	
	経産牛	42~47	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

あそぼ

今月の表紙は、「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」(第42回全国発表大会にて開催)で特選に輝いた作品「あそぼ」(埼玉県 丹野 貴子氏撮影)です。興味津々に触れ合うお子さんと、慣れているのか、落ち着いて優しい眼をしている仔牛に心なごむ作品です。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼7月11日、12日に熊本市にて第42回全国酪農青年女性酪農発表大会が開催され、全国各地から約600名の方にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。発表いただいた皆様を始め、ご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。来年は7月17日、18日に宮城県仙台市のホテルメトロポリタン仙台にて開催予定となっております。また皆様にお会いできる日を楽しみにしております。▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

編集後記

お詫びと訂正

本誌7月号26頁に掲載しました「見て歩記」の地図の表記に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

(誤り) 群馬県 → (正) 山形県

平成25年8月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 8月号 No.575

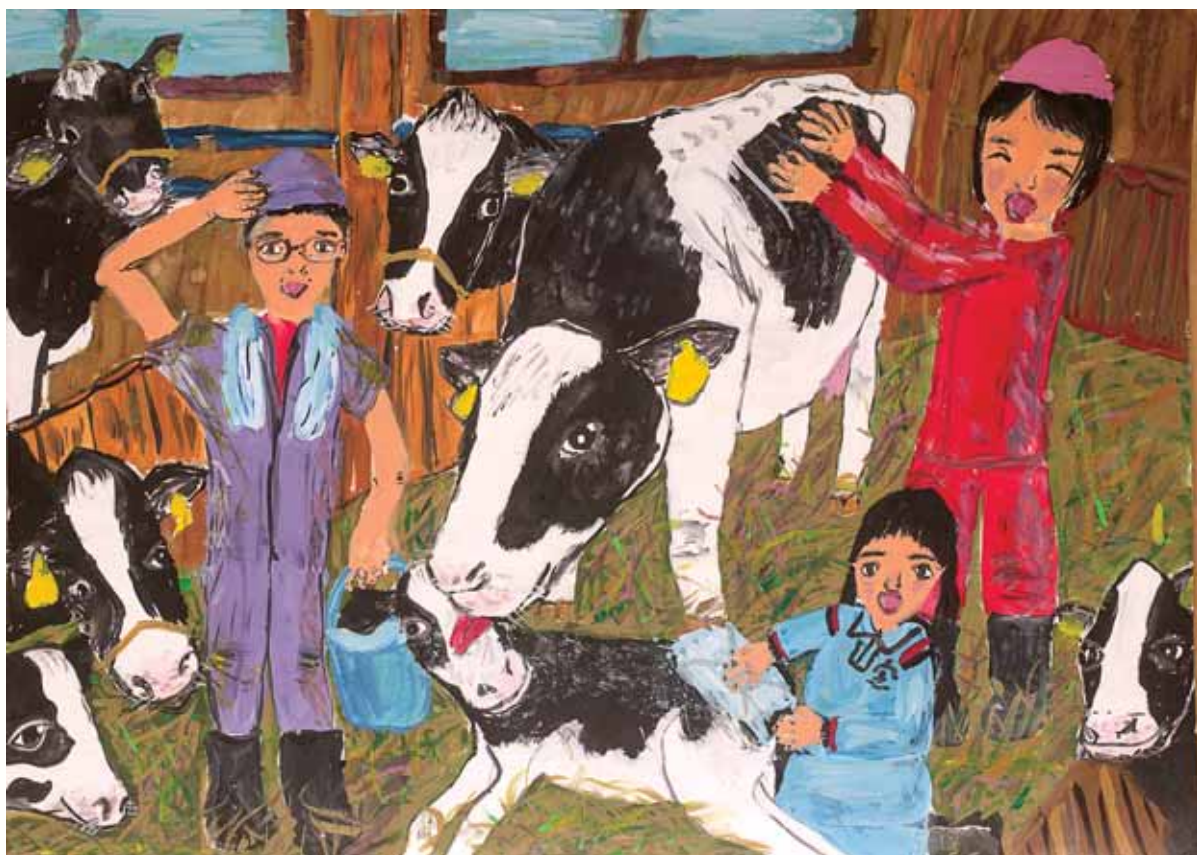
●編集・発行人 中島 裕志郎

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品介绍

やったー!仲間が増えたよっ!!

福岡中学校(東北)1年 石澤 愛



今月の入選作品は、福岡中学校(東北)1年の石澤 愛さんの「やったー!仲間が増えたよっ!!」です。

牛舎での作業風景と牛さん親子の仲睦まじい関係を中学生ならではの計算された構図によって表現されています。丁寧な描写で完成度の高い作品です。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議主催の「第40回らくのうこどもギャラリー」で全国377点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議